

ハンブルクは、ここ数日 30 度を越える暑さが続いています。皆様いかにお過ごしですか？

3日のワールド・カップでは、ドイツがアルゼンチンに勝ち、今、ドイツ中が湧いています。ワールド・カップは、伝道の大きなチャンスでもあります。AKMMでも、2002年の日韓ワールド・カップの伝道部門の資金援助のために、チャリティーコンサートを開催しました。今回の南アフリカ大会でも、多くの伝道団体が、人々にトラクトや聖書を配って伝道活動しています。ドイツのチ

ームの中では、アルネ・フレドリッヒ選手と、カカウ選手がクリスチャンです。フレドリッヒ選手は、「信仰は私の生き方の礎」と証しし、カカウ選手のモットーは、「100%をフィールドで、100%イエス様のために」です。7日のドイツスペイン対戦をご覧になれる方は、どうぞこのふたりに注目してください。

(写真：セーヌ川から眺めるノートルダム)



## ●パリ (コンサートとゲイ・フライド考)

6月26日のパリでのコンサートのためにお祈りくださり、ありがとうございました！

ピアノの山越さん、オルガンの野村直子さん、ソプラノの下内愛子さん、聖歌隊の皆さんとともに、主の溢れるご臨在を感じながら、心からの賛美を捧げることができました。また翌27日には、ヨーロッパの日本語教会の中核とも言えるパリ日本語教会の、30周年記念礼拝にて特別賛美を捧げさせていただきました。主がパリ教会を愛し、ここまで導いてくださったことを感謝する記念すべき日に、共に主を礼拝・賛美させていただいたことは、私にとって、この上もない喜びでした。



(写真中央、ソプラノの下内愛子さんとデュエット、右、聖歌隊と「いつくしみ深き」)

26日のコンサート当日のことですが、「ゲイ・プライド」（同性愛者のパレード）が2時にモンパルナス公演を出発、最終目的地がバスティーユ広場というニュースが入りました。コンサート会場であるマレー改革派教会は、バスティーユ広場のすぐ横です。コンサートは丁度15時～16時30分の予定でしたから、数人の方に急いでメールを送り、主がコンサートを守ってくださるよう、強力な祈りをお願いしました。

奇しくも、創世記の、同性愛の罪に陥った町、ソドムとゴモラを主が滅ぼされた箇所を学んでいる時でした。主が、ロトとその家族を救ってくださったように、主を呼び求める者たちを守り、祝し、主を探し求めている方を教会に集めてくださるようにと祈りました。

コンサートには、作田安子さんがリハビリセンターから車椅子で駆けつけてくださいました。安子さんは、一番前で、少女のようなつづらなひとみをして、私の目の前に座っておられました。そして、ドロローサを歌い始めた時、目の前の安子さんと、マティアス・グリュエネヴァルトが描いたイーゼンハイム祭壇画の小羊が、重なったのです。賛美コンサートは、普通、聴衆の皆さんが賛美者の賛美を聞きながら主を見上げ、共に主を拝し、神のご臨在に近づく時だと思えます。でも、今回は、私に、会場におられる安子さんを通して主を見上げ、主のご臨在を感じていました。



少し安子さんのことを紹介させていただきます。在欧の方々はずでに周知のことですが、安子さんは、パリ教会創立から主と教会に仕えて来られた作田銀也さんの奥



様で、ご主人とともに、主とパリ教会のために献身的に仕えて来られました。私は丁度2年前の6月にもパリでコンサートをさせていただきましたが、その時、安子さんは、骨粗鬆症で背骨が折れ、チタンの板を入れる手術、セメント注入の手術などを繰り返していた時でした。その後も、何度か手術を繰り返し、今年4月末には、頸椎をチタンで補強するという大手術をされました。この2年間、痛みと苦しみを通して、さらに主に近づかれて行く安子さんの信仰の証しとそのお姿は、多くの人への励まし、慰めとなってきました。今回の手術前に教会でされた証しでも、「神様はこの病気を直したくないのではなくてこのままの私を通してご自分を表したいの

です」と語られたそうです。（写真 27日の記念礼拝後、安子さんと）

コンサートに話しを戻します。「ドロローサ」の後につないだ「主は今生きておられる」では、安子さんのうちに生きておられるイエス様の圧倒的なご臨在を感じ、感動で心が震えました。その後は、安子さんの姿は会場の中に溶け込んでしまい、会堂全体がイエス様の愛ですっぽり包まれたような気がしました。そして、聞く者も歌う者もひとつとなり、共に主の感動に浸るようなひと時を過ごさせていただきました。

ちなみに、「ゲイ・プライド」は、コンサート終了から1時間ほど経って、バスティーユ広場に到着しました。お陰で、コンサートに来てくださった方も、目をおおいたくなる姿と、耳を覆いたくなる騒音のパレードに遭遇することなく、帰路につくことができました。



けれども、ハンブルクに戻って、気付かれたことがあります。それは、同性愛の罪で滅ぼされたソドムが、何と、かの千年王国で回復されるということでした。(エゼキエル 16 : 44~55 参照) 回復されるとは、もう同性愛者としてではなく、主にあって、本来あるべき姿に戻されるということです。

さらに気付かれたことは、実は私は、ソドムよりもっと重い罪—イエス様を拒否する罪(マタイ 11:23,24)—に陥っていた者であったということでした。そのような罪深い者が、恵みと憐れみを受けて救われたのです。それならば、高ぶることなく、彼らの回復のために祈ってゆかなければならないと思わされたのです。それが、とりなしの祈りを捧げるために召された祭司としての務めであることを、ようやく気付き始めた今日この頃です。

(写真 コンサート会場のマレー教会)

5日~9日、バルセロナ近郊タラゴナ市で行われる声楽セミナーに参加します。祝された時となりますよう、お祈りください。

主の溢れるご愛と恵みを、心からお祈りしています。

工藤篤子

